ビジネス

ベトナムで初開催の国際農機具見本市
エフ・イーが道内2社と出展、大盛況

旭川の農機メーカー「エフ・イー」（旭川市工業団地3ノ2、佐々木通彦社長）をはじめとする道内3社は3月12～14日、ベトナム・ホーチミン市で行われた世界的農業機械展示会「アグリ・テクニカ・アジア・ベトナム2025」に初出展した。このうち、エフ・イーはすでにベトナムに根菜洗浄機を輸出した実績があるが、同国内で行われる農機具の展示会への出展は初めて。

「アグリ・テクニカ」は、ドイツ農業協会が主催する世界最大の農業技術見本市。1985年にドイツ・フランクフルトで1回目が開催され、その後、アジア版の「アグリ・テクニカ・アジア」が2017年から2年に一度、タイ・バンコクで開かれるようになった。

今回、ベトナム・ホーチミン市で開かれたアジア版は近年、経済発展著しいASEAN後発国（1995年以降に加盟のベトナム、ミャンマー、カンボジア、ラオス）での市場開拓を目的に今年から開かれ、今後2年に一度、開催の予定という。エフ・イーは過去、フランクフルトの見本市に2回、バンコクの展示会は初回から欠かさず参加している常連で、ベトナムのダラット市に野菜洗浄機を輸出した実績も持っている。今回のベトナム開催の見本市出展では、ズバリ今後の成長が見込めるASEAN後発国をターゲットにしている。

ベトナム見本市には25カ国から303の企業・団体が出展し、期間中の来場者数は1万693人を数えた。エフ・イーは旭川機械工業（旭川市、関山真教社長）、サンエイ工業（斜里町、毛利剛社長）とともに日本ブースを形成し、野菜洗浄機をはじめ、農作物出荷用機器ラインについて映像とポスター、カタログを用いてPRしたという。

同社の三宅勇太常務は「来場客の反応は非常に良かった。一番人気はやはり、輸出実績のある野菜洗浄機で、特にベトナムはショウガの一大産地であることから、その出荷準備に使いたいという声をたくさんいただきました」と話し、「当社をはじめとする日本製品は、品質の良さから現地でも注目の的ですが、ハードルとなるのは内外価格差。現地の経済事情では、日本の製品はまだまだ高価なため、簡単には導入できないようです」と、課題を指摘する。

ただ、ASEAN諸国はこの10年間で目覚ましい経済発展を遂げており、今後、有望な輸出市場として期待できることから、この見本市には定期的に出展していく考えだ。

3月に開催されたアグリ・テクニカ・アジア・ベトナム。下写真はエフ・イーも出店した日本ブース